

物価指数研究会（第8回）議事概要

- 1 日 時 平成29年3月14日（火） 15：00～17：00
- 2 場 所 総務省第2庁舎 6階特別会議室
- 3 議 題 インターネット通信販売価格の把握について
- 4 出席者 （委員等）美添座長、舟岡委員、樋田委員、宇南山審議協力者
（統計局）千野統計調査部長、北原調査企画課長、小松物価統計室長ほか
- 5 配布資料
書類番号1 インターネット通信販売価格の把握に関する平成28年度実施報告
書類番号2 インターネット通信販売の現状について
書類番号3 インターネット通信販売価格の把握に関する諸外国の取組状況
書類番号4 インターネット通信販売価格の把握に関する今後の取組について（案）

6 主な意見等

議 題 インターネット通信販売価格の把握について

<書類番号1>インターネット通信販売価格の把握に関する平成28年度実施報告

- ネット価格のCPIへの取り込みを考える際には、ネットでの価格変動と小売店舗での価格変動を長期で比較し、その違いを確認することが必要と考える。
- 価格の取集頻度（日次か月次か）、取集時点、集計方法等の選択により系列の動きが変わると考えられるため、その点についても検討いただきたい。
- CPIは月次の指数を作るというのが基本的な考え方である。日次の価格を全て利用して月次の価格を作成し、指数化するという方法も考えられ、その意味ではカバレッジが広がる。集計算式については、諸外国の研究等も踏まえて検討してまいりたい。なお、日次取集の場合、新商品の価格取集のタイミングは新たな問題として出てくると思う。
- 小売店舗の価格とネット価格の比較については、購入率との相関（価格が安いものほど購入率が高い）を分析することも重要であり、両者のかい離が大きくなった場合、品目への統合化の際のウエイト変化についても考える必要がある。航空運賃は価格情報が大量に取得可能であり、効果的な活用をして総合化することが望ましい。ネット価格情報を捕捉する上で、同一サイト・同一商品の価格が安定して継続的に入手可能かどうかの確認や、継続取集できたものに対象を限定した上で、価格の分布状況や動きを検証することも必要と考える。
- ウエイト付け、総合化、継続性の確保等、非常に難しい課題ではあるが、御指摘いただいた点について十分に検討してまいりたい。

- ウェブスクレイピングでの取集と対比されるのはPOSデータであり、同じ品目に該当しそうな商品データを（ネット上から）大量に無差別に取得することがイメージされる。大量のデータを取得するということを考えた場合、ネットからは商品情報の取得が難しいと思われるので、前月又は前日と同一サイト・同一商品であるかを識別できるかどうかという点が重要であり、接続可能なものだけで物価指数を作るという方法が現実的かと思う。
- サイト名、商品名等、接続に必要な情報は取得可能であるため、御提示いただいた方法についても検討してまいりたい。

<書類番号4>インターネット通信販売価格の把握に関する今後の取組について（案）

- 平成 29 年度は、被服関連品目のように品質のコントロールが難しい品目もウェブスクレイピングでデータを取集する計画になっている。品質に関連した説明やワードを可能な限り詳細に取得することで、品質のコントロールや規格の定め方についての検討材料になるのではないか。
- 1年間継続して調査し、季節による変動等、確認する必要があると思う。
- 消費者がネット通販を利用するのは、価格が安い点、利便性が高い点、多様な商品にアクセスできる点にあると思う。価格が高い安いというのは、銘柄指定とほぼ同等であるから、スクレイピングして価格を取集して指数に活かすことは適当と考える。利便性については、ネットの購入割合が高い地域において、従来の小売物価統計調査で取集する以外にネット価格を取集するという方法も考えなければならない。多様性については、衣料品の場合、色々な商品があるから消費者は通販サイトを選択するものと思われるが、商品を固定して価格変化を追跡できたとしても、商品の入れ替わりが頻繁であり、追跡期間も限られる。また、商品別の売上情報は入手が見込めないことから、現実的にはかなり厳しく、検討・研究するのは良いが、指数への取り込みについては少し慎重に考えるべきである。
- 「パソコン」及び「デジタルカメラ」は、現行の指数（POSデータを用いたヘドニック指数）と、ウェブスクレイピングにより大量取集した価格による指数（月次又は日次で接続可能なデータに限定等して作成）でどの程度違いが生じるか等、大量データ同士の比較実験として意味があると思われるので、当該2品目については是非実施してもらいたい。
- 航空運賃であれば、ウェブスクレイピングを利用すれば、ある程度網羅的に取集できると思われるので、現在の指数計算（モデル式）に利用している路線の数を増やした場合の指数を作成し、比較・評価するとよい。
- 諸外国の取組が早く、画像認識もこの1～2年で信じられないくらい技術の進歩が激しい。AIも今は第3世代と言われており、驚くほど進んでいる。ネット価格の取集、CPIへの取り込み等、各国とも苦労しており、我が国においても直ちに結論を出すことは難しいが、しっかりと検討・研究を進めてほしい。
- 統計局としても、チャレンジングな取組ということは十分承知しており、簡単にできるものかどうかは思っていない。御意見等いただきながら、慎重に取り組んでまいりたい。